

小倉南区

●長尾市民センター

●長行市民センター

市民センターにおける生涯学習事業

区	小倉南区	センター名	長尾市民センター
---	------	-------	----------

事業・活動名

未来の種事業 「未来への学び プログラミングラボ」

事業・活動の背景とねらい・目的

新しい学習指導要領では、情報技術を活用しながら論理的・創造的に課題を解決する「プログラミング的思考」が必要とされている。プログラミング的思考を「scratch」を使って経験し、これからの社会で子どもたちが自ら学び、自ら考える「生きる力」を身に着けるために求められる力を身につけ、体験や学ぶことで自分の可能性が広がることに気付く。また、地域と小学校だけでなく、高校、専門学校など多様な主体との連携・協働を通して幅広い人材による地域の教育力の向上を目指す。

取組内容

「Scratch」を使って、ITの専門講師よりプログラミングを基礎から学んだ。県立小倉商業高校の2年生8名が、小学生と一緒にプログラミングとは？の話してから、小学校では学ばないX座標、Y座標を含む基本命令について学習し、応用命令にもチャレンジし、変数を取り入れるなどして初心者用ゲームを作成した。次に自分が作りたいオリジナルゲームを作成し、成果発表を行った。それぞれが注目してもらいたいところや、どんなところが難しかったかなどについて説明をして、最後にお互いのゲームを体験した。子どもたちが作成したゲームは校区文化祭でコーナーを設置し、来場者にも体験してもらった。

成果・効果

体験により子どもたちが自分の可能性に気付き、達成感を得ることができた。また、ボランティアで参加した高校生と一緒に考えたり説明したりして寄り添うことを通して、有用感を実感し、市民センターや地域を身近に感じてもらう機会となった。

文化祭で作成したゲームを体験するコーナーを作り来場者が体験する様子を見て子どもたちが達成感を感じ、地域の大人にとっては子どもたちの可能性に気付く機会となり、今後の地域の教育力向上に期待が持てる。

今後の取組

学校法人大原学園、福岡県立小倉商業高校との連携については、それぞれの専門や得意な分野の経験・知識等を地域課題解決のために生かしていただきたいと考えており、今年度はそのはじめの1歩だったので、多様な主体との連携をすすめるなかで次年度も継続して事業を実施できるよう検討している。

他地域展開を見据えた視点・ポイント

学校以外の場で高い専門性を持った講師から学ぶ機会を子どもたちに提供できる可能性や、多様な主体と連携することでそれぞれの専門性や強みを生かし、より幅広い分野での学習の機会を作り出す可能性が広がる。

活動の様子



高校生と一緒に作業する様子



オリジナルゲーム発表の様子



文化祭での体験コーナーの様子

地域・人づくりアドバイザー、地域・人づくり担当補佐の関わり

講座を企画するにあたって、地域ではぐくもう「未来の種」事業として実施することとし、市民センターと連携する小倉商業高校と大原学園担当教諭と一緒に事業の企画立案の話し合いに参加し、具体的な実施計画作成を支援した。

作成者

小倉南区役所コミュニティ支援課 地域・人づくりアドバイザー 前田 純恵

市民センターにおける生涯学習事業

区	小倉南区	センター名	長行市民センター
---	------	-------	----------

事業・活動名

生涯学習市民講座 北九州市立大学地域創生学群 大学生企画 「長行宣言を作る会」

事業・活動の背景とねらい・目的

北九州市立大学連携事業の実習で地域活動に参加した大学生が「世代間交流の希薄・若者がまちづくりに参加する機会が少ない」等の長行校区の地域課題に気づき、課題解決のため次世代の担い手である子ども達と地域の大人をつなぐパイプ役となるため企画した。世代交流が活発になるきっかけをつくること、子ども達が長行校区を身近に感じシビックプライドが醸成され地域への関心や愛着を高めることがねらいである。また、企画した大学生も自分の地域で活動できる人材へと成長することを目指す。

取組内容

全3回の連続講座を実施。参加対象は主に地域の中学生を中心に、大学生がファシリテーターを務めた。第一回「長行の今を知ろう」では中学生に長行について聞き取りをし、中学生が何に興味があるのかを探った。第二回「長行の未来を語ろう」では、中学生とまちづくり協議会、PTA等の地域で活躍している大人と長行のこれからについてお互いの目線で語り合った。中学生もまちづくりに関心があることを知り、地域の大人たちに今後は子ども達の意見を聞いたり、参画させたりする意識が芽生えた。第三回目「長行宣言の完成を目指そう」では、中学生と大学生とで今回までの振り返りをして具体的に「宣言」とは何を作るのか？を話し合い、まずは理想や目標が大人から子どもまで分かるスローガンのようなものを作ることとし、「わくわくドキドキするまち長行」を長行宣言として完成させた。

成果・効果

大学生がファシリテーター（パイプ役）を務めたことで、「地域」とは違う目線が入り、今まで交わることのなかった世代（中学生と地域の大人）が「長行」についてお互いの思いを知ることができた。子ども達は自分のまちがたくさんの大人たちに支えられていることを知り、未来の長行には何が必要かを真剣に考えるきっかけとなった。未来の担い手である子ども達が長行宣言の作成に関わったことでより自分の地域に関心や愛着を高めることができた。現在の担い手である大人も、子ども達がまちづくりに参加できるような工夫を市民センターと共に取り組むきっかけとなった。また、ファシリテーターを務めた大学生は、話し合いの難しさやまちづくりの大変さも楽しさも両方体感できた。実習の枠を超えて大きな達成感を得たのではないかなと思う。将来、自分の地域でまちづくりの担い手になることを期待する。

今後の取組

全3回と短い時間では宣言を作るまでには至らなかったため、今後も大学生が長行校区に関わりながらみんなで宣言を作っていく、地域へ浸透させていく。大学生は、実習は終了したが今後も長行に関わっていく一緒にまちづくりに参加していく。
市民センターも今までとは違う参加対象の講座を実施し、多世代交流を図る。

他地域展開を見据えた視点・ポイント

地域以外の人々が「パイプ役」となり、外からの目線で人と人をつなぐことで新たな視点が生まれ、まちづくりのきっかけをつくることができる。子どもと一緒にまちづくりを考えることで、地域への関心や愛着を高め次世代の人材育成につながる。

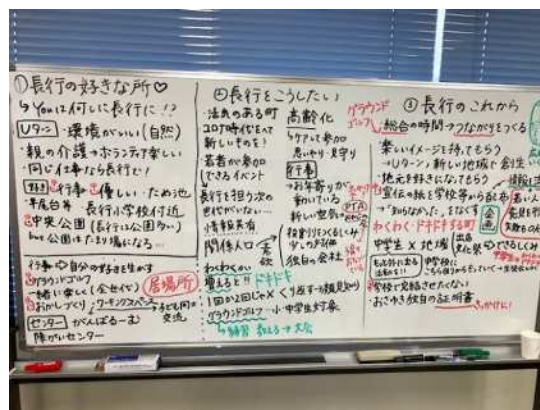
活動の様子



第一回 中学生に長行について聞く様子



第二回 まちづくり協議会、PTAと話し合い



それぞれの意見を板書し、見える化

地域・人づくりアドバイザー、地域・人づくり担当補佐の関わり

講座を実施するにあたって、大学生が作る「宣言」が、地域にとっても納得いく形になるように、アドバイスした。全講座を見学し、講座終了後の振り返りに参加。次回の進行の提案やアドバイスをおこなった。

作成者

小倉南区役所コミュニティ支援課 地域・人づくり担当補佐 岩元 綾